

## 校名：神戸大学附属中等教育学校

所在地：〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手5丁目11-1 電話番号：078-811-0232

記載日：2016年6月10日 記載者：勝山 元照 記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、神戸大学附属学校の大規模再編に伴って、旧附属住吉中・明石中を母体に2009年に発足（後期課程：高校段階は2012年）した中等教育学校であり、2度の卒業生を送り出したばかりの若い学校である。神戸大学との一体的運営を追及するとともに、国立大学附属学校の使命として研究開発事業等に積極的に取り組んでいる。

神戸大学の掲げる「グローバルエクセレンス」と連動した「グローバルキャリア人の育成」を目標に掲げ、人間性の教育、探究性の教育、国際性の教育、基礎教養の教育を4本の柱にした教育を行っている。ユネスコスクールに加盟するとともに、文部科学省の研究開発学校として地歴科新科目「地理基礎」「歴史基礎」の開発を行っている。また、スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定を受け、「地球の安全保障」をテーマに「課題研究」や「グローバルアクションプログラム」等の事業を展開している。

本校教育の基盤に、教科の枠をこえた汎用的能力としての「見つける力」「調べる力」「まとめる力」「発表する力」と「考える力」で構成される「5つの力」の養成があり、共に支えあう「協同学習」の存在がある。

校訓として「自治」「協同」「創造」を掲げ、生徒の自主性を尊重したリベラルな校風（学校の価値観）を有している。

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 行っていない。たまたま旧附属住吉中、明石中の閉校行事の際に把握した。
- ② 情報は、旧附属住吉中、明石中同窓会が把握しているが、本校との関係は不明瞭である。
- ③ 状況を具体的にお書きください。

<文化> 小坂明子 森山未来 浅井江理 花柳迪薰 <学者> 嵯峨山茂樹

<政界> 丸川珠代 鴻池祥肇 西村やすし 佐々木知子

<マスコミ> 佐々木恭子 中浜葉月 杉尾秀哉

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていない。
- ② あまり把握していないが、神戸大学教育関係者の同窓会名簿、地元新聞の人事情報等で把握につとめている。
- ③ 状況を具体的にお書きください

中等教育学校発足以後は、次のとおりである。（旧住吉中・明石中時代は省略）

兵庫県との交流 管理職・主幹教諭として復帰2名 中高一貫教育校で活躍1名

神戸市・姫路市等との交流 管理職・主幹教諭として復帰4名

各教科等研究会で活躍多数

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

(1) 「地理基礎」「歴史基礎」(新学習指導要領への貢献)

日本学術会議の提言をふまえつつ、新学習指導要領策定(「地理総合」「歴史総合」として成立する見通し)に関する先導的取り組みとして、平成25年度より研究開発学校の指定を受けて実施している。

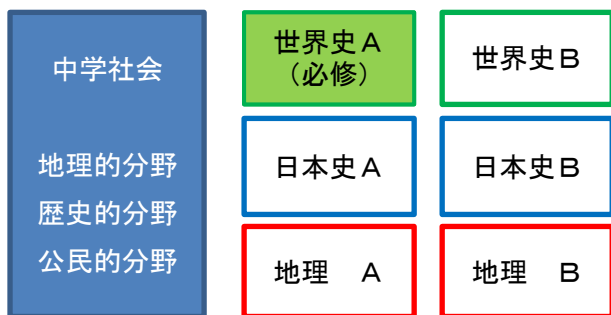
両新科目は、グローバルな時空間認識の育成を目標に、生徒の思考・表現・判断力育成を重視しつつ、生徒の諸活動(アクティブラーニング)を尊重する点で共通している。

「地理基礎」は、地誌・系統地理・主題学習を関連づけた「主題的相互展開学習」として構成している。また「歴史基礎」は、日本史と世界史を融合し近現代史を重視した「主題的単元史学習」として構成している。中教審や学術会議の審議にも影響を及ぼしており、マスコミ等からも注目されている。今後、新学習指導要領の策定を見通し公立学校への効率的な普及に尽力する予定である。

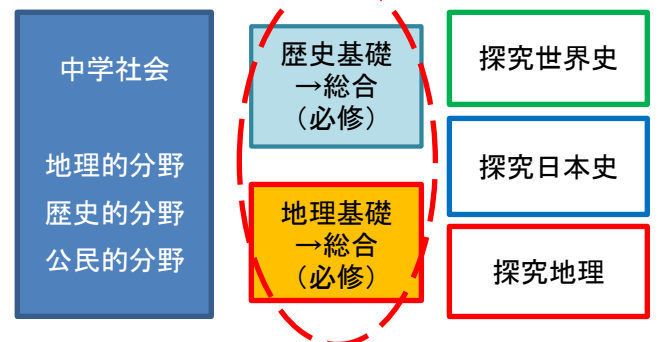


話し合い考える「地歴」学習

<現行：学習指導要領>



<新：学習指導要領(構想)>



(2) 「協同学習」(旧附属住吉中時代から)

本校では、旧附属住吉中時代から小集団学習・協同学習に取り組んできたが、協同学習は地元の公立中学等でもその重要性が認識されており、公開授業研究会や講師派遣等を通して貢献している。現在後期課程(高校段階)における協同学習の開発に取り組んでいる。

新指導要領が強調しているアクティブラーニングの展開においては、コミュニケーション能力の育成が急務であり、本校が開発・蓄積してきた協同学習の成果は、今後の公立学校(中・高)教育に貢献できる。

(3) 「ESD」(ユネスコスクールとして)

本校では、ユネスコスクール加盟(平成26年9月)以前から、ESD(持続可能な開発のための教育)に取り組んできた。地球的規模の課題を扱うESDは、本校の教育全般(教科、総合学習、特別活動等)で取り組んでいるが、社会科等の合科的実践として3年「ESD」、4年「国際理解」(学校設定科目)を設けて特設的に実践している。また、アートマイル(壁画制作を通しての国際交流)や「食」プロジェクト等を実践している。



アートマイル：本校制作の壁画

ESD は新学習指導要領においても重要課題であり、本校 ESD の具体的実践は、今後の公立学校（中・高）教育に貢献できる。

#### （４）一貫教育，接続教育（神戸大学附属学校全体として）

神戸大学附属学校は、附属学校の大規模再編にあたって、初等教育学校（幼小一貫）、中等教育学校（中高一貫）構想を企図し実行した。さらに初等・中等が連携しつつ、高等教育（神戸大学・大学院）を視野に入れたカリキュラム開発を試行するとともに、「初・中・高等一貫教育センター」の設立を視野に、英語教育や総合学習にいけるカリキュラム作りを進めている。

特に英語教育においては、国際コミュニケーションセンターの支援を得て、具体的なプラン作りが進んでおり、中等教員サイドからの提言を行っている。また、SGH指定とも関連して高大接続研究の一環として次年度入学生の特別入試を実施する予定である。

#### （５）スーパーグローバルハイスクール（SGH）の取り組み

##### ①「SGH 課題研究（卒業研究）」

本校の SGH（平成 27～31 年度指定）は、ユネスコスクールの特色をふまえながら、「神戸から発信する地球の安全保障への提言」をテーマに実施している。SGH の中心となる課題研究は、上記テーマのもと、次の４領域を設けて行っている。生徒には 18000 字以上の論文提出を義務付けている。

- ・震災復興とリスクマネジメント
- ・国際都市「神戸」と世界の文化
- ・提言：国際紛争・対立から平和・協力へ
- ・グローバルサイエンスと拠点都市「神戸」

##### ②「SGH グローバルアクションプログラム」

課題研究を円滑に実施する上からも、グローバルな視点に基づく学習・調査活動、国際交流体験等は必要不可欠であり、本校ではこうした諸活動を「グローバルアクションプログラム」（海外 12 国内 23 計 35 事業：含む外部団体主催）として行っている。



震災・復興：ボーリング調査



世界の文化：台湾高雄師範大附属との協同発表

#### ③神戸大学との一体的運営

SGH は高校段階の事業としては大掛かりな事業であり、神戸大学のサポートなしには成立しない。そこで、以下の点で大学の全面的な協力を得ている。

- ・課題研究のサポート
- ・大学の講座受講
- ・国際教育の支援
- ・SGH 検証システム

SGH の実践は、グローバル人材育成に大きく貢献していることは言うまでもないが、本校の実績は、次の点で公立学校をはじめとする広範な教育に貢献できる。

- ・課題発見能力や課題解決能力の育成方法
- ・海外派遣交流や国内交流の実施方法
- ・神戸大学の支援を得て行っている SGH 検証システムによる評価方法

**地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：**

国立の中高一貫教育校としてユニークな存在である。現在は附属学校再編の過渡期であり3年生以上はほぼ附属小学校出身者が占めるため、多様な本校に対するイメージが混在している。現2年生以下は、本来の構想となり、一般適性検査を実施したこともあって、国際教育に尽力している学校で、将来「リベラルな進学校（進学主義ではない）」になるだろうと認識されている。

附属住吉中・明石中時代は、人事交流・教育研究レベルで地元の教育委員会との関係性が強かったが、平成23年の後期課程（高校段階）発足とともに兵庫県教委との関係がやや強くなっている。兵庫県教委とはSGHや国際交流事業において良好な関係を有している。

### **附属学校の存在意義、貴校の存在意義について**

平成16年に出された国立大学附属学校の「新たな活用方策」は、その方向性として国立大学附属学校の存在意義を明示している。だが、附属学校の現場には、現状を正しく認識しようとする夜郎自大的な附属学校理解が散在し、社会に対しその存在意義を理解してもらえるかどうかはいささか心もとない。

教員養成系大学附属の場合は、「新たな活用方策」の方向性に加え、高度教員養成への多面的貢献、地域のモデル校としての存在意義がより重要になると思われる。

非教員養成系大学附属である本校の場合は、教員養成や地域のモデル校としての役割に加え、国の教育政策拠点校としての役割がより重要になると考えている。

具体的には、第三期中期計画をふまえ以下の事業に取り組むことが存在意義を示すことになる。

#### ①グローバル人材育成のための研究開発（SGH、地歴研究開発、ユネスコスクール等）

グローバル人材育成は国家の至上命令であるが、方途は多様で重層的である。本校教育の特色で記したように、SGH、地歴研究開発、ユネスコスクール等の事業を発展させる形で対応する。

#### ②附属学校園と連携した幼小中高大を見通したカリキュラム開発

神戸大学が設置する予定の「初・中・高等一貫教育センター」を中心に、幼稚園から大学院までを見通した一貫教育・接続教育の研究を推進する。

#### ③附属学校（例えば中高一貫教育5校）連携による共同研究の推進等があげられる。

国の教育課題（例えば、理数教育、財政教育の推進等）について、複数の附属学校が基本的な枠組み作りを請負う形で対応する。